



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2005.5

No.253

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



ロタ島に行ってきました

長嶋宏之（蓮田市）

2月19日～22日の間、南十字星が見える癒しの島、ロタ島に行ってきました。

1. ロタ島のプロフィール

サイパンからプロペラ機で30分、雲の上の夕日を楽しんでいる間に、何とも素朴なロタ空港に着陸した。

ロタ島はおよそ東経145度、北緯15度に位置し、東にマリアナ海峡を有する隆起石灰岩でできている島だ。日本との時差は1時間。1～6月が乾季、7～12月が雨季だ。気温は年間を通して21～32度位。朝夕は涼しいが日中の行動は少しつらい。この季節、ロタ島は乾季で、小鳥達は子育てに忙しい時期だった。

2. バードサンクチュアリー

舗装道路が終わり、石灰岩がむき出しになった道路を5分ほど走っただろうか、先がスーッと開けて車が3～4台止められる広場に着いた。

両側から覆いかぶさる枝を払いのけながら、獣道のような岩の小道を進むと、海風を感じた。同時に、太平洋の青い海、青い空そして水平線が目飛び込んできた。我々は高さ100mもあろうかと思える絶壁の真上に立っていたのだ。

左手は1kmも続く断崖。眼下の林は200～300mの幅があるだろうか。その林の樹冠では、アカアシカツオドリの真っ白な幼鳥が何



羽もいる。可愛い盛りだ。幾羽もの親鳥がひっきりなしに飛ぶ。右の岩棚あたりからシラオネツタイチョウが、クロアジサシが、そして絶滅危惧種のクバリーガラスが幸運にも眼下を飛んだ。右手のALAGUANBAYの洋上では、2羽のアカオネツタイチョウがお互いの上空を交互に羽ばたき、まるでダンスのような愛のディスプレイを見せてくれた。夕方のバードサンクチュアリーは、崖を上ってくる潮風が気持ちいい。オオグンカンドリが手の届きそうなところを通過する。大きく勇壮な姿だ。「あれが♂、こっちが♀、あれは若」。ココナッツビレッジの稲葉さんの説明が嬉しかった。

3. コバシヒメアオバト

ソンソン村の白いメインストリートを進み、製糖工場跡の蒸気機関車を右に見ると、まもなく千本椰子公園だった。右手は50m下の500円玉が識別できると言われるロタブルーの珊瑚礁だ。その沖合いにクロアジサシのコロニーがあった。

左手の崖の方でオオベニバトが飛んだ。コバシヒメアオバトの声も聞こえてくる。声のする方を探すが林が深く姿が見えない。声をひそめ探鳥が続く。スタンレー野生生物調査官が林の中で、「こっちに來い」と手で合図をくれた。ついに探しあてた。ねむの木に似た淡いピンク色の花の側にコバシヒメアオバトはじっとしていた。近い！春日部のH女史が300mmで見事にとらえた。



4. ミクロネシアミツスイ

ロタ島の朝は清々しい。朝日を受けて木々の葉も生き生きと見える。パンノキの大きな葉や、ホウホウボクの高木が茂り、それらの枝に野生のニガウリが絡み、林を深くしている。朝食前にそんな林道の探鳥を試みた。

早速、デービットが、こんもりした木の根元付近にムナジロバトの♀を見つけた。レンガ色の地味なハトだった。何かが一瞬と木々の葉をかすめた。オウギビタキだ。全体が渋い赤色で尾羽が長い。時々扇のように広げて、裏側先端の白い帯を見せる。

先ほどから、4通りの声でカラスモドキが騒がしく鳴き交わしている。次の瞬間赤い塊が林道を横切った。「ミツスイだ!」、案内の稲葉さんが小声で叫んだ。皆の目が一斉に赤い塊の行き先を追う。ちょうど良い枝にポーズをとったのではないか。サービス満点。光線もいいし、これはデジスコの距離だ。

朝食への戻り道、林道を50cm位の子供のオオトカゲが道案内をしてくれた。

5. 森の妖精シロアジサシ



南国の夏空を背景にシロアジサシは雲の白さと白さを競っているかのように、いつもペアで飛んでいた。スーッと2羽が少し離れた木に下りた。枝が邪魔している。しかも逆光だ。東京支部のK氏が見やすいところを見つけた。「これはいける。チャンスは2度無い」。直感的にそう思った。とにかくシャッターを押した。一呼吸すると仕事を終えた開放感が広がった。

帰り道で農家の若い夫婦が赤ん坊を抱いて車ですれちがった。デービットが手を上げ

て、にこやかに挨拶を交わす。ロタは人が優しい。

6. マリアナメジロ

タイサカン観察路の展望台は、眼前にフィリッピン海が広がるサバナ高原の中腹にあった。景色に見慣れるまもなく、絶滅が心配されているマリアナメジロの群れが真下を飛んだ。5羽、7羽、いや10羽はいただろうか。日本のメジロより濃い黄緑で、飛ぶと黒っぽい線が上面に出た。順光を受けて、枝移りする姿を懸命に追った。ひとしきりの喧騒が終わり、誰かがアオコウモリが飛ぶのを見つけた。大きい! ゆっくりと羽ばたき、力強く進んで行く。やはりここはロタ島だ。

7. 文中に出てこなかった観察種

カツオドリ、アオサギ、(クロサギ)、アマサギ、ヨシゴイ、グアムクイナ、(ムナグロ)、ナンヨウショウビン、スズメ、オウチュウ、()内はサイパンで観察。合計27種

8. 関係資料

- ①「ふたりのロタ島動物記」大沢啓子、大沢夕志著 山と溪谷社
- ②日本人の新しい生き方への提言「ロタ論」マイク若月著 さんが出版
- ③「A FIELD GUIDE TO The Birds of Hawaii and the Tropical Pacific」
BY H. DOUGLAS SPATT
PHILLIP L. BRUNER AND
DELWYN G. BERRETT
PRINCETON UNIVERSITY PRESS
- ④Coconut Village ホームページ
<http://www.rota-coconut.com/index.htm>



ナンヨウショウビン

全国野鳥密猟問題シンポジウム報告「いまこそ“野の鳥は野に!”」

福井恒人（さいたま市）

平成16年12月11日と12日の2日間、三重県伊勢市で、全国野鳥密猟対策連絡会・(財)日本野鳥の会主催、環境省・三重県・WWF ジャパン・NHK・朝日新聞など後援のシンポジウムが開催され、私は埼玉県支部を代表して出席しました。

様々な団体、行政機関などとともに、野鳥の会支部は、埼玉県支部も含めて16支部が参加しました。

開会宣言、来賓紹介等のプログラムが進み、密対連事務局局長中村さんが「密対連の流れ」として、通報から捜索までの一連の流れを説明しました。

第一部は全国各地からの報告です。三重県支部「三重県南勢地区における密猟パトロール」、大阪支部「大阪府の密猟問題・現状と課題」、茨城支部「茨城の密猟問題」、岐阜県支部「岐阜県のオオタカの密猟」、愛知県支部「愛知県の鷹匠と密猟問題」と続きました。

第二部は野鳥識別講座。山階鳥類研究所茂田氏の「インドネシアのメジロとオオタカの種の識別」、環境省野生生物課横山氏の「輸入規制と愛玩飼養の見通しについて・その2」の話でした。

以上で第1日目のスケジュールは終了。午後1時から6時まで、皆さん熱心に勉強しました。

第2日目は、朝6時半から伊勢神宮で早朝探鳥会をして朝食。9時から第三部が始まりました。

東京支部「東京都の野鳥販売店調査について」、本部自然保護室「全国一斉野鳥販売実態調査2004結果報告」、中野獣医「猛禽類の輸入がもたらす数々の問題点」。

第四部は本部自然保護室古南氏の「密猟防止対策・ノウハウ」。法的権限を有しない我々が注意すべき点、どこまでできるか？などの意見発表、質疑応答がありました。

すべてのスケジュールを終わり、アピール文が発表され、次回茨城県での再会を約束して、解散となりました。

野鳥と思われる鳥を飼っているというだけで、即違法、とは言い切れない場合もあります。正規の通関書類や検疫通過を確認できる書類を有している輸入鳥の場合などは、適法な飼育になります。きちんとした調査が必要です。

一方、違法捕獲、違法飼育と思われる報告があっても、野鳥の会には、立ち入り調査などをする権限はありません。事例に応じて、埼玉県の場合は、県みどり自然課野生生物担当（電話048-830-3143、メール：a3140@pref.saitama.lg.jp）に連絡して、その地域担当の鳥獣保護員による調査指導、場合によっては警察による対応を促すことになります。

結果は期待通りとは限りませんが、諦めずに根気良く、野鳥を籠の中で飼う事のない時が来る日を目指します。

はみ出し行事案内

秩父市・三峰神社探鳥会(要予約)

期日：6月11日(土)～12日(日)

集合：11日午前8時、JR大宮駅西口

交通：往復とも貸し切りバスを利用

解散：12日午後4時頃、JR大宮駅

費用：18,500円の予定(バス代、1泊2食付宿泊費、12日昼食代、保険料など)。

万一過不足の場合は当日精算。集合駅までの往復交通費は各自負担。

定員：20名(支部会員限定)

申し込み：通常はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記して、橋口長和

まで。

担当：橋口、玉井、田邊

見どころ：初日は、横瀬町の県民の森で探鳥してから三峰神社へ。宿泊は神社の宿坊を利用します。2日目は早朝4時から神社周辺を探鳥します。

注意：11日の昼食は持参。宿泊は男女別の相部屋です。個室のご用意は出来ません。

お世話になりました

吉岡正壽 (幸手市)

2月11日渡良瀬遊水地にて貴支部の開かれた冬の野鳥観察セッションに参加した者です。寒風吹き荒ぶ中にもかかわらず、皆様から各種野鳥の名称や生態につき、丁寧な解説を頂きました。

高性能の望遠鏡をお持ちの方からは、ファインダーに捕らえた野鳥を見せて頂きました。

初心者にも楽しみをわけて頂きました。

解散後、一人で遅れて駅まで歩く途次、セグロセキレイやジョウビタキなどもあらためて見て、楽しみました。

渡良瀬遊水地ミニ通信

内田孝男 (総和町)

3月21日のヨシ焼きは26日も中止、27日に延期。去年は「雪」で鎮火、今年は「風強し」。自然の営みに脱帽。2度にわたる順延など、今までの記憶にありません。みんなガツカリして帰り支度。そんな人の行動など関係なく、エナガ、シジュウカラやベニマシコたちが、芽吹き始めた柳の芽を無心についばんでいました。

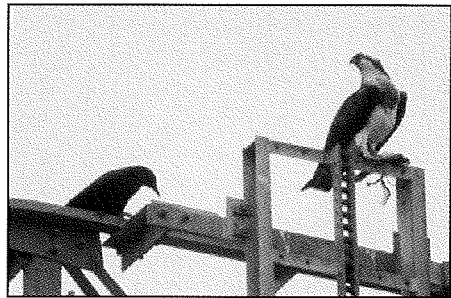
ミサゴが第3調整地の鉄塔で野鳥を食べていました、ハシボソガラスがおこぼれをと寄って来ましたが、無視。やっぱりワシタカの仲間です。今後は「魚をハンティングして越冬しています」ではなく、「主に魚を取って生活しています」と言い換えます。谷中湖テリトリーのみサゴは、露出した土の上に降りてじっとしているのを、ときどき見かけます。

3月13日は18名でごみ拾いを実施しました。清掃後3日で新しい物が捨てられています。清掃登山という言葉が一般的になり広まりつつありますが、清掃探鳥会というのはまだまだ少ないです。もちろん捨てないことが大前提です。

3月7日のNHK総合テレビでの放映は、一般的には歴史、自然とも時間内によく紹介されている、といった感想が耳にも入って来ました。私は、作成した構成のS氏に、「植物については芽生えには攪乱が必要条件でしょうが、攪乱＝工事の印象を与えているような気

がしました。工事が絶対ではない、攪乱には別の形もあると思います」等の感想を伝えました。野鳥については、代表的な種をはじめ、身近なカッコウの一面を、改めて映像で楽しむことができました。

今冬訪れた野鳥たちは繁殖地に向かって帰って行きます。一方チョウゲンボウは既に夫婦行動、ヒバリ、ホオジロ、ウグイス、カラヒワたちは囀り始めています。



第2次県内野鳥分布調査にご協力を!!

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

当支部では1985年5月から5年間、夏鳥と冬鳥に注目して県内野鳥調査を実施、本誌増刊号(1993年4月号、第107号)で発表しました。その調査から20年が経過、県内の鳥類相の変化と分布を把握するため、下記の要領で第2次県内野鳥分布調査を実施します。

調査期間：2005年5月から5年間

調査地域：埼玉県内全域

実施時期：夏鳥 5月10日～7月10日

冬鳥 12月1日～1月31日

調査方法：観察された鳥種を、地域ごとに、

支部報同封の調査はがきでご連絡ください。

調査はがきは、7月号に夏鳥用を、

1月号に冬鳥用を同封します。今後、メール等による集計方法も検討しています。

注目種：生態的に注目される種を毎回指定

します。今年の夏鳥では、外来種のガビ

チョウです。

会員の皆様の積極的なご参加をお願い申し

上げます。

(小荷田行男)



野鳥情報

- 小川町奈良梨** ◇12月30日午前11時頃、市野川橋上空をタゲリ3羽、北から南方向へ飛ぶ（鈴木敬）。
- 小川町能増** ◇1月8日午前、市野川東側の農耕地で採餌するケリ3羽。その近くでタゲリ1羽（鈴木敬）。
- 北川辺町渡良瀬遊水地** ◇1月1日、マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、コガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリなど。ベニマシコの声聞きながら、トビ、ミサゴ3羽、コチョウゲンボウ2羽、チュウビ5羽＋、ノスリ。ハイロチュウビは罠入りを観察したところ、♂3羽＋♀2羽＋。その他ミヤマガラスが上空通過（鈴木紀雄）。
- 所沢市狭山湖** ◇1月2日午前、5羽のコハクチョウが飛来したと聞き、駆けつけました。成鳥2羽、幼鳥3羽でした。午後3時、北方向からさらに1羽飛来し着水しました。その時5羽は金堀沢入り江にいましたので、6羽が飛来したことになります。なお翌日以降確認されていません（小林ますみ）。
- 寄居町鷹巣** ◇1月8日午前10時30分頃、関越道沿い西側の沼脇でミンサザイ1羽、声がする方を探すと、林縁に積まれた枯木の上に姿を見せました（鈴木敬）。
- 吉見町八丁湖公園** ◇1月12日、ルリビタキ♂5羽♀2羽、あっちにもこっちにも♂のブルーの羽が見事でした。ジョウビタキ♂♀、ベニマシコ♂2羽♀1羽、赤松の木にキクイタダキ4羽。ハイタカ1羽、林の中をつんぬけていきました。オオタカ1羽、上空通過。トラツグミの羽毛が山道に散乱していました。赤松林の地上でビンズイ6羽、アオジ多数、カシラダカ多数、シロハラ、シメ、マガモ多数、コガモ、ハシビロガモなど。1月26日、ルリビタキ♂6羽♀3羽、トラツグミ1羽、アオゲラ1羽、アカゲラ2羽、ベニマシコ♀1羽、ヤマガラ2羽、カケス、シロハラなど（本多己秀）。
- 滑川町森林公園** ◇1月17日午後3時30頃、山田大沼にて、トモエガモ♂1羽、ヨシガモ♂1羽（鈴木昇）。
- 東松山市下唐子** ◇1月19日午後3時頃、市民プール付近の雑木林でキレンジャク1羽（大沢隆）。
- 坂戸市城山** ◇1月24日午前11時40分頃、ソウシチョウ6羽。当地で3年ぶりです。報道によると、「特定外来生物」に指定が見込まれるそうです（増尾隆）。
- 飯能市** ◇1月28日、正丸峠旧道の残雪の歩道でミヤマホオジロ♂3羽♀5羽、盛んに採餌。10mまで接近して見た。更にその後、カヤクグリ1羽（山影昭三）。
- 毛呂山町新しき村** ◇1月30日午前11時頃、イカル13羽。コガラ2羽。大愛堂そばでトラツグミ1羽、地面に落ちてる青い木の実をついばんでいた（増尾隆）。
- 入間市みどりの森** ◇2月3日、ミヤマホオジロ♂1羽♀2羽、アオジ、ホオジロ、ルリビタキ♀、シロハラ、ノスリ（山影昭三）。
- 坂戸市浅羽ビオトープ** ◇2月5日午前11時30分、水路わき低木林でヤマシギ1羽。地面を歩きまわって何かを採餌しているように見えました。当地初認です（坂口稔）。
- ◇2月9日午前、セイタカアワダチソウの種子をついばんでいるベニマシコ♂2羽。若鳥なのか紅色が薄かった。他にカシラダカ、カワラヒワ、イカルの各群れ、水路ではクイナ1羽。高麗川対岸の高木の枝に、ノスリが止まっていた（増尾隆、他3名）。
- さいたま市見沼区南部浄化センター付近**
◇1月8日、セイタカアワダチソウの中にベニマシコが数羽、セッカ1羽、アオジ数羽、カシラダカ10数羽、ホオジロ10数羽が飛び交っていた。◇1月19日、芝川に注ぐ流入口の流れて、キセキレイ、ハクセキレイ、イソシギが仲良く採餌していた（赤堀尚義）。
- さいたま市見沼区新右衛門新田** ◇1月24日、芝川の開けた土手でタヒバリ5羽、ホオジロ4、5羽、カワラヒワ10数羽が先を争い採餌していた（赤堀尚義）。
- さいたま市見沼区大谷環境広場** ◇1月24日、イカルチドリ7羽、コチドリ5羽など。こ

の時期コチドリがいるのは珍しい。2月7日、タシギ2羽、イカルチドリ4羽など(鈴木紀雄)。

さいたま市大宮区大宮第三公園付近 ◇1月8日、芝川の中州にユリカモメ9羽、イカルチドリ1羽、バン1羽、カルガモ5羽、コガモ3羽が仲良く羽繕い。川面にカイツブリ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、オナガガモ、ホシハジロ、オカヨシガモ、カルガモ、バンが浮かんでいた。カワセミ1羽が下流に飛び去った(赤堀尚義)。

さいたま市浦和区大原サッカー場付近 ◇1月8日、フェンス際の本でアカハラ1羽、休耕田でカシラダカ、ホオジロ数羽、道脇の枯れ草にジョウビタキ♂1羽(赤堀尚義)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬 ◇1月14日、彩湖を北端から眺め渡して、カンムリカイツブリ30羽+、ユリカモメ50羽+、ホシハジロ22羽、ヨシガモ♂4羽♀3羽、オカヨシガモ6羽。秋ヶ瀬橋すぐ北側のグラウンドでタゲリ10羽+。子供の森でアカゲラ♂2羽が追いかけあい。クロジ♂若鳥2羽♀1羽。ピクニックの森でルリビタキ♀が撮影対象になっていた。上空にノスリ(鈴木紀雄)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇1月20日、B区、C区境の土手から、飛翔中のツグミを襲うオオタカ若鳥1羽を観察。狩りは失敗(鈴木紀雄)。

戸田市道満グリーンパーク ◇1月21日、ミコアイサ♂1羽♀2羽(陶山和良、岩井義雄)。

蓮田市黒浜 ◇1月11日、上沼でカワセミが目の高さでホバリング、飛び込んで小魚を目前で捕る。近くの田でタシギ3羽、上空をアカゲラ通過。療養所内でルリビタキの声、ククイタダキ3羽など(鈴木紀雄)。
◇1月20日正午前後、療養所内でトラツグミ1羽、芝生の端で堂々と餌を探していたので、初めはキジバトかと思ったが、念の為双眼鏡で見てよかった。黒とくすんだ黄色のツートンカラーカがとても美しく、10分以上も見とれてしまった。カシラダカ、ツグミ、シメ、メジロ、ウグイス、モズ♀、ジョウビタキ♀、シロハラ2羽、ククイタ

ダキ1羽、カケス2羽、アカゲラ♀1羽など。1月22日、同所でヒガラ4羽、ククイタダキ3羽と混群を作り、赤松の枝先で忙しく飛び回り採餌。シロハラ3羽、カケス2羽、アオジ、シメ、カシラダカ、コゲラ、ツグミ、ジョウビタキなど。1月24日正午頃、同所でトラツグミ1羽、今回は10mの距離から見た。尾羽の両側が黒茶色で、それを上下させながら餌をつついていた。カケス5羽、シロハラ7羽、カシラダカ多数、アオジ多数など(本多己秀)。

岩槻市岩槻文化公園 ◇1月11日、元荒川の水際の土手でタシギ3羽。カルガモ群れ中にマガモ♂1羽。1月19日、ヤマガラ、エナガ5羽など。1月21日、セグロカモメ飛翔、村国池奥の葦原でベニマシコの声。2月1日、ヨシガモ♂1羽、タシギ飛翔、セグロカモメ、カワセミ、シジュウカラさえる。ヤマガラ、アカハラ、シロハラ、クロジ♂2羽♀1羽など33種(鈴木紀雄)。

岩槻市大戸 ◇1月26日、農耕地の木の中にオオタカ若鳥1羽(鈴木紀雄)。

伊奈町小室 1月25日、東北新幹線より南側の農耕地でミヤマガラス5羽(鈴木紀雄)。

伊奈町小針内宿 ◇1月25日、農耕地及び電線でミヤマガラス約50羽。割と警戒心が強く、車で近づいても電線に避難(鈴木紀雄)。

春日部市内牧 ◇1月26日、宮代側の一角の林が更地になってしまい、そこにカシラダカ100羽+が群れていた。小さな堀でカワセミ(鈴木紀雄)。

北本市石戸宿 ◇1月26日、北本自然観察公園でクイナ1羽、カケス2羽、アリスイ1羽、ベニマシコ♂1羽など(本多己秀)。

表紙の写真

スズメ目モズ科モズ属モズ

2004年4月17日(土)朝6時30分ころ。
八重桜の周りをモズのペアが跳びまわって、しきりに鳴いていた。雌は八重桜の天辺に止まると、キチキチ鳴きながら、時々羽を振るわせ、まるで餌をねだる幼鳥のようなしぐさをしていた。

写真と文・大澤 祐(川本町)



行事案内



腹も黒い
けど、
ハラゲロとは
鳴かない

ムナグロ 胸黒
Pluvialis dominica (富士鷹なすび)
24cm

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章した担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

さいたま市・秋ヶ瀬自然観察会

期日：5月1日(日)

集合：午前9時、下大久保バス停付近。

交通：浦和駅西口より大久保浄水場行き

バス 8:40 発にて「下大久保」下車。

解散：午後3時頃、現地にて。

担当：小荷田、佐久間、杉原

見どころ：ハンノキ天然林が残る秋ヶ瀬

ピクニックの森。ハンノキ、エノキ、クヌギ、ケヤキ、ヤナギ類、ゴマギ、ノイバラなど新緑に輝く樹々。芽吹き間もないアシヤスゲ類。林床に光があたる季節に咲くスミレ類などの春植物……。湿り気や、光などに応じて住み分ける樹木や林床植物を観察します。

その他：あれば樹木や草本の図鑑、ルーペをお供に。午後は、サクラソウ自生地へ。昼食持参でお出かけください。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日(木・祝)

集合：午前9時35分、JR京葉線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和 8:35→南浦和 8:39→南船橋 9:29 着。(直通)

担当：杉本、手塚、長谷部、菱沼(一)

見どころ：長旅の途中に立ち寄り疲れをいやすシギやチドリ類、今年はどうな珍客が訪れてくれるのでしょうか。潮が引くにつれ、海から鳥がやってきます。

軽井沢野鳥の森周辺探鳥会(要予約)

期日：5月7日(土)～8日(日)

定員に達したので締め切りました。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月8日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷 9:11 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：中里、後藤、和田、島田、森本、石井(博)、倉崎、高橋(ふ)、藤田、栗原、大澤、飛田、新井(巖)

見どころ：五月晴れの土手に心地よい風がわたり、明戸堰では水鳥たちの子育てが始まっています。葦原ではオオヨシキリの恋歌が、天空ではツバメも行き交っています。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月8日(日)

集合：午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：田中、玉井、中村(榮)、吉安、長嶋、長野、菱沼(一)、松永、榎本(建)、青木

見どころ：田植えも一段落した笹山、黒浜の田んぼを、元荒川から黒浜沼まで歩きます。お目当ては、旅の途中に立ち寄りしてくれるムナグロやシギ類。コアジサシなども見られるかな。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月15日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、若林、森、小菅、赤堀、新部、青木

見どころ：今月は1日が日曜日だったので、最も早い第3日曜日だ。カッコウにはまだ早い、連休の頃に植えられた田んぼが美しい。昨年はコアジサシやムナグロ、アマサギが。初夏の見沼田んぼにお出かけください。

加須市・はなさき公園探鳥会

期日：5月15日(日)

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅南口、または午前9時はなさき公園駐車場。

交通：JR宇都宮線大宮8:04→久喜8:24着にて、東武伊勢崎線春日部8:21→久喜8:34発に乗車→花崎8:42着。

担当：長嶋、中里、玉井、田村、宮下、四分一

見どころ：さわやかな風を頬に感じながら、新緑の公園を歩きませんか。空には揚げヒバリ、葦原ではオオヨシキリ、モズが皆さんのお出かけを待っています。お子さん、初心者の方大歓迎です。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：5月21日(土)～5月22日(日)

集合：21日午前9時00分、長野駅コンコース新幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま551号」(東京6:52→大宮7:18→熊谷7:32→本庄早稲田7:43→高崎7:53→長野8:47着)、または「あさま1号」(東京7:28→大宮7:52→長野8:53着)。

費用：11,000円の予定(1泊3食、現地バス代、保険料など)。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：30名(先着順、県支部会員優先)
申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記し、菱沼一充

まで。

見どころ：美声の主たちの共演。クロツグミ、マミジロ、アカハラなどのツグミ類とヒタキ、ホオジロの類が出演予定です。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。

『しらこぼと』袋つめの会

とき：5月21日(土)午後3時～4時ごろ

会場：支部事務局108号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月22日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:36発に乗車。

担当：長谷部、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、山本(義)、石光、山田(義)

見どころ：繁殖期を迎えた鳥たちの賑やかなさえずり、夏羽、子育てなどを観察しましょう。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：5月28日(土)

集合：午前8時50分、東武伊勢崎線羽生駅改札口、集合後バスにて現地へ。
または午前9時30分水郷公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部8:13→久喜8:27→羽生8:46着。またはJR宇都宮線大宮7:55→久喜8:15着にて、東武伊勢崎線乗り換え。

担当：中里、和田、榎本(秀)、田村、宮下、四分一、栗原

見どころ：公園も緑が濃くなり、池ではパンヤカイツブリが子育てで大忙し。葦原ではオオヨシキリが声高らかに縄張り宣言。カッコウの声も。

◆行事案内は4ページにもあります。



行事報告

2月10日(木) 戸田市 彩湖

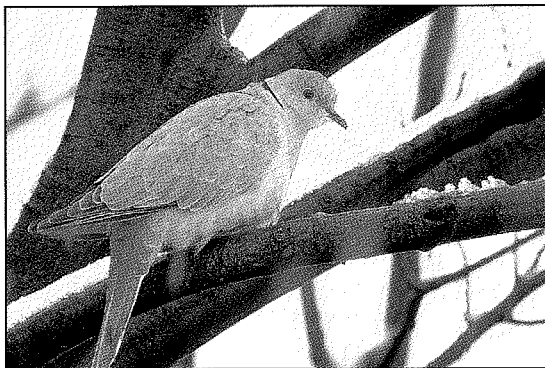
参加：29名 天気：晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ ヨシガモ チョウゲンボウ バン オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 朝から暖かい。バン、オオバンを見ていたらカワセミが出た。皆で楽しむベニマシコ♀。湖に出るが、カモ類はいない。小休止の後、釣堀のそばの草原で小鳥たちを見て、再び湖に。カンムリカイツブリ、ユリカモメ、セグロカモメ 1羽。対岸のオオバンの中にヨシガモ♂10♀6。35種も出て終わった。(倉林宗太郎)

2月11日(金、休) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加：73名 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ミコアイサ カワアイサ ミサゴ トビ ノスリ チュウヒ ユリカモメ セグロカモメ シラコバト キジバト カワセミ アカゲラ ヒバリ ハクセキレイ



シラコバト (千葉博子)

タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (48種) 昨年引き続き谷中湖の干し上げで水抜きが行われ、カモ類全体の数が非常に少ない。ただでさえ環境が悪化している中、渡りの水鳥に影響がないわけがない。カモ類が少ない分、鷹見台遠征で猛禽をと思ったが、干し上げで現れた魚を狙ったトビばかりが目立つ。風は強くはなかったが鳥影の少ない渡良瀬であった。(橋口長和)

2月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加：28名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ ホオジロガモ ミコアイサ トビ オオタカ ノスリ キジ イカルチドリ クサシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) 風もなく穏やかな朝。次第に気温も上がって、絶好の探鳥日和だ。頭上に群飛するヒメアマツバメ。間近に止まっていたオオタカ。コハクチョウの群れの手前にはホオジロガモやミコアイサの姿も。楽しい探鳥のひとつを見守るように、秩父の山並みがすっきりとそびえ立っていた。(榎本秀和)

2月13日(日) さいたま市 大宮市民の森

参加：71名 天気：晴のち曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ オオタカ バン キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 市民の森の白梅、紅梅が咲き始め、梅の香りが開始の挨拶中にも漂

ってきた。前日の下見では種数が少なかったが、始めてみるとハシビロガモ、キンクロハジロが、また思いもかけずオオタカがカラスにモビングされながら出現し、その場を盛り上げてくれた。クイナは残念だったが、カワセミはじっくりと観察できた。駅から歩ける都市近郊の探鳥会としては、まずまずだった。(工藤洋三)

2月19日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園
雪のため中止。

2月19日(土) 羽生市 羽生水郷公園
雪のため中止。

2月19日(土)『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア：11名

新井浩、榎本秀和、海老原教子、大坂幸男、倉林宗太郎、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、藤野富代、松村禎夫、百瀬修

2月20日(日) 深谷市 仙元山公園
参加：47名 天気：曇

カワウ カルガモ トビ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(27種)市報に案内を掲載していただいた関係だと思われるが、市内の方が22名も参加していた。仙元山の成立とその変化、公園管理のあり方などへのコメントもまじえて、幼稚園児から90歳のシルバーの方まで幅広い層の方々と一緒に「あっヤマガラがエゴの実を食べている」「アオゲラだ! 雄かな雌かな」などなど、楽しい探鳥会だった。(小池一男)

2月20日(日) 東松山市 物見山
参加：47名 天気：曇

オオタカ ノスリ コジュケイ キジバト コゲラ キセキレイ ヒヨドリ モズ カヤクグリ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ ミヤマホオジロ ベニマシコ イカル シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(27種)こども動物自然公園

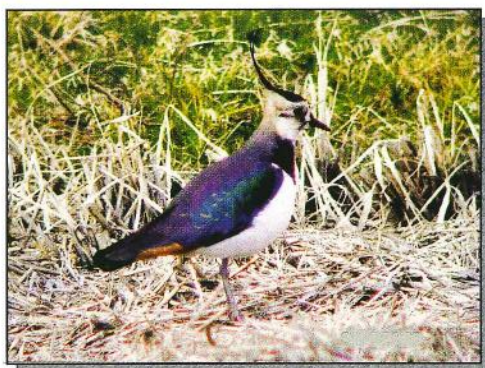
からのワラビーの家出騒動で、捕獲を恐れてか、市民の森のゲストたちはどこかに姿を消してしまった。谷津田で、イカル7羽、ミヤマホオジロ3羽。岩殿観音の参道の空き地で、カヤクグリ、シロハラに会うことができた。下見ではウソも居たけど、残念。(島田恵司)

2月20日(日) さいたま市 三室地区
参加：61名 天気：曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ アオサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ クイナ バン オオバン タシギ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(31種)今年立春が過ぎても寒く、雪が降った。前日に降った雪に気をつけて探鳥をした。カワセミやコサギ、ダイサギなどいつもの鳥が出現しなかったが、タシギやクイナが楽しませてくれた。寒さのためにコースを短縮。春を待ち望んだ探鳥会だった。(福井恒人)

2月20日(日) 所沢市 狭山湖
参加：18名 天気：曇

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ キンクロハジロ ホオジロガモ トビ オオタカ ノスリ キジバト アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ルリビタキ シロハラ ツグミ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシブトガラス(40種)1年振りの狭山湖は、新たに小林(ま)、持丸の両氏をリーダー陣に迎え、万全の体制。ところが、前々日からの雪と雨のせい参加者は総勢18名。下見では大サービスをしてくれたルリビタキが声だけと肩すかしをくったものの、夏羽が目立つカンムリカイツブリの群れや、その中に遠慮がちに混じるハジロカイツブリを確認。遠かったがホオジロガモの雄の鮮やかな姿も識別できた。残念ながら参考記録に終わったトラツグミを別にして40種に達し、充実の狭山湖だった。(石光 章)



タゲリ (大塚操)



●表紙の写真続々ご応募に大感謝!!

たくさんの方からお寄せいただきました。大変ありがとうございます。少し残念だったのが、冬に間に写した写真が多かったことです。例えば今後6月号にご応募いただく時、昨年6月に撮影した写真はありますか。

●本部からのお知らせ

- 1, 今まで本部のホームページ <http://www.wbsj.org> を通じて入会できるのは本部型会員だけでしたが、3月から、総合会員、支部型会員、個人特別会員、家族会員もオンライン入会ができるようになりました。
- 2, 京王新線「初台」駅から徒歩2分の本部事務局に併設されているバードプラザは、現在年中無休(年末年始を除く)で正午から午後7時までオープンしています。土曜日曜などにもお立ち寄りください。
- 3, ホームページで全国のツバメの巣の地図を作るツバメかんさつ全国ネットワークに参加してみませんか。 <http://www.tsubame-map.jp/>にどうぞ。

●カワウ対策協議会

関東各県と福島・山梨・静岡県を含む関東ブロック広域協議会、及び各県単位の地域協議会が設置されることになり、3月16日(水)県庁内で開催された第1回地域協議会に、藤掛保司支部長と小荷田行男研究部長が出席しました。

●普及活動

3月13日(日)神流湖と城峰公園で開催された児玉郡神泉村教育委員会主催の野鳥観察会で、町田好一郎が指導しました。

●事務局の予定

- 5月7日(土) 編集部・普及部・研究部会議。
- 5月14日(土) 6月号校正(午後4時から)。
- 5月15日(日) 役員会。
- 5月21日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

●会員数は

4月1日現在 2,354 人です。

活動報告

- 3月12日(土) 4月号校正(海老原美夫・大坂幸男・佐久間博文・藤掛保司・山田義郎)
- 3月12日(土) 本部評議員会(橋口長和評議員・海老原常務理事・藤掛支部長出席)。
- 3月15日(火) カワウ協議会に関し、県みどり自然課職員2名来局。
- 3月20日(日) 役員会(司会:田邊八州雄、個人情報保護法対策など)。
- 3月22日(火) 4月号を発送(倉林宗太郎)。

編集後記

今年もまた、JR 武蔵野線新三郷駅の跨線橋でチョウゲンボウが営巣・繁殖しそう。武蔵野線利用の際はちょっと途中下車、次の電車までの時間を、ホームから楽しんではいかが? 5月の連休ごろまで楽しめます。(山部)

しらこぼと 2005年5月号(第253号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608
 本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社